建築文化奨励賞

景観に配慮した建築物

濃密な空間を感じさせる住宅

熊木邸（くまきてい）

建築主：熊木　貞夫
設　計：（株）太田照己都市建築デザインファーム
施　工：株式会社　岩　本　組

所在地：市川市菅野1-7-17

間口が狭く隣家に囲まれた変形の敷地をうまく生かした住宅である。外観はコンクリート打ち放しと杉板張りで構成された簡素で控えめな表情を見せている。

市道に開かれた形を保ちながら、訪れた人を奥に誘い込むアプローチがある。玄関に入り廊下を通り抜け部屋に向かう、そのすべてが濃密な空間を構成し、街なかの喧騒とは異なる世界に導かれる気がした。

新居は地震に強く、明るく暖かい家にしたいという条件に加えて、茶道をたしなむご夫婦のための小間と庭を組み込むことに工夫が凝らされている。

１階は茶室と客間、２階は居間と厨房・寝室等が配置されており、屋上デッキには野点ができる場所も設けられている。

市街地にありながら、茶道空間の持つ静寂さが見事に演出され、温もりや安らぎを感じることができる。

２階は「光と風」を取り込み、開放的な明るさがある。南側には開口部を大きく取り、屋上につらなる階段の吹き抜けからの採光も効果的である。

北側アプローチから

玄関から茶室へ（撮影　安川千秋）

居間兼食堂は広々としており、階下とは雰囲気は変えながらも気品のある美しさを醸し出している。

丁寧な設計や施工には好感がもたれたが、屋上に手すりがないことが気になるとの声もあった。　（五十嵐浩）

9

環境に配慮した建築物

太陽電池・熱活用と半地下室で省エネルギー

中崎邸（なかさきてい）

建築主：中崎　英彦
設　計：久保田章敬建築研究所
施　工：株式会社　地下室

所在地：千葉市緑区大椎町1199-199

千葉市郊外の緑に囲まれた分譲地内にある中崎邸は、年を重ねたご夫婦２人の新しい暮らしの舞台だ。

敷地１６５㎡、建築面積７３㎡、半地下と１階からなる延床面積は１０６㎡である。コンパクトながら施主と設計者の弾んだ会話が想像できる心くばりの施された住宅である。

玄関を入ると吹き抜けの階段室があり、上下の空間の一体化を図っている。上階は天井が高く広々としたリビングダイニングルーム。その一画は４帖半の畳敷き。木材を主とした内装は障子や襖を配した和風づくり。南面ガラス戸越しには、広縁風のベランダが伸びる。

北側は納戸付きの寝室に続く洗面所と浴室。東側のキッチンへの動線にも無理がなく、使い勝手もよさそうだ。

階下は蔵書に囲まれたご主人の書斎。半地下構造は先端技術から生まれた工法を採用し、３方向に掘り広げられたライトコートからの採光・通風も充分で、保温・防音にも優れた快適空間になっている。

建物外観を個性的にしている入れ違いの片流れ勾配屋根には、太陽熱利用の温水器と発電用のソーラーパネルを設置し、広い屋根面を活用した。毎月の計測データもとって省エネルギー対策も周到だ。

半地下室のある外観（4寸勾配の片流れ屋根）

太陽光発電の活用（撮影　ナカサ＆パートナーズ）

ライフスタイルの変化、有限の環境問題、住宅を巡る時代の課題に対し、確かな生活姿勢と先進技術導入の積み重ねこそ、今後の貴重なモデルとして生かされよう。

（野口瑠璃）